

(別紙2)

令和5年度上期「米子市弓浜コミュニティ広場」モニタリング評価表〔令和6年1月〕

施設名	米子市弓浜コミュニティ広場	
施設所管課	総合政策部 まちづくり企画課	
指定管理者名	団体名	特定非営利活動法人ひだまり
	所在地	米子市大篠津町125番地2
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 ・ 非公募	
施設の設置目的	米子市弓浜コミュニティ広場は、国が、美保飛行場の滑走路付替え事業により集団移転した大篠津町集落跡地の利活用事業として整備したもので、国から施設の使用許可を受け、平成27年4月1日から米子市が管理運営を行っている。	
主な実施事業	・ 施設、設備及び器具の維持管理（樹木管理、施設の保守点検、補修、清掃等） ・ 広場の使用申請書の受付及び許可書の交付、利用者の応接等 ・ 広場の利用促進	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
<b>I 履行の確認 (60点)</b>			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	A	(事業計画書、月毎の事業報告書を確認) ・ 管理体制が明確で、適切な人員配置がなされている。 ・ 緊急時等における事案毎の連絡体制が作成されている。 ・ 防犯、防災または事件等の早期発見のために周辺住民によって連絡会が組織されている。
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	A	(月毎の事業報告書を確認) ・ 救命蘇生研修、小型車両系建設機械・解体用講習に職員が参加するな

			ど、広場の管理運営、業務遂行における職員の資質向上に努めている。
(3) 利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	(月毎の事業報告書を確認) ・ホームページの更新維持、時間外使用への対応により利用促進を行っている。
2 利用者に関する業務			
(1) 利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	(月毎の事業報告書を確認) ・利用者数は昨年同時期と比較し第1多目的広場、第2多目的広場ともに増加(前年比108%)。 ・稼働率は昨年同時期と同程度であり、約80%の稼働率となっている。
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	(事業計画書、月毎の事業報告書) ・アンケート調査を実施するなど、事業計画書に基づいた対応を実施している。
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	(事業計画書、月毎の事業報告書) ・事業計画書に基づき毎日適切に実施されており、管理日誌、業務日報等に記録されている。 ・第三者に行わせる業務は、最小限で実施されている。
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか	A	(事業計画書、月毎の事

	第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か		業報告書) ・事業計画書に基づき毎日適切に実施されており、管理日誌等に記録されている。 ・第三者に行わせる業務は、最小限で実施されている。
(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	(事業計画書、月毎の事業報告書) ・事業計画書に基づき毎日適切に実施されており(1日2回)、管理日誌に記録されている。 ・夜間等における防犯・防災または事件等の早期発見のために周辺住民によって連絡会が組織されている。 ・保安・警備業務は直営で実施している。
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	(事業計画書、月毎の事業報告書) ・事業計画書に基づき適切に実施され、管理日誌、作業報告書等に記録されている。 ・第三者に行わせる業務は、最小限で実施されている。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	—	—
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	(事業計画書、ヒアリング) ・個人情報を含む書類は適切に保管されている。

6	管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	(事業計画書) ・施設整備の経緯、規模、立地条件、現状等について正しく認識し、今後のあり方についての提案は、概ね具体化されている。(管理運営、情報発信、防犯対策等)
<b>II サービスの質の評価 (25点)</b>				
1	利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	(事業計画書、月毎の事業報告書、ヒアリング) ・飲料用自動販売機の追加設置等、利用者へのサービス向上に努めている。 ・利用者アンケートを実施し、分析・評価がなされている。
2	維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	A	(月毎の事業報告書、現地確認) ・日常的に清掃業務、衛生管理、備品の維持管理等が実施されている。
3	運營業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	(事業計画書、ヒアリング資料) ・事業計画書に基づいたサービス水準向上のための創意工夫が見られる。 (HPで予約状況確認、広報紙作成、時間外使用) ・利用者からの苦情もなく、適切な接遇・対応がなされていると考えている。
4	自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	—	—

5	施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	(事業計画書、事業報告書を確認) ・広場が整備された経緯等を正しく理解し、快適な環境作りや利用促進のため、現状を正しく認識して管理運営を行っている。
<b>Ⅲ サービスの安定性の評価 (15点)</b>				
1	事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	(事業収支) ・収支予算に基づき、適正な運営を行っている。
2	経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	(経営状況分析指標) ・事業が黒字で施設の管理運営ができています。
3	団体等の経営状況 (年度ごと)	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	—	—

<p><b>【総評 (所管課評価)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営については、アンケート結果でも高い評価を得ており、全体を通じて良好な運営がなされている。</li> <li>・地域の団体等との協力により、防犯体制等の優れた体制がとられている。</li> <li>・平日利用率の向上や新たな利用者の確保等、利用促進の取組み強化に努めている。</li> <li>・法人としての経営基盤の強化に努められたい。</li> </ul>	<p><b>合計点</b> (63) 点 / (85) 点 ×100 = (74)</p> <p><b>平均点</b> (3.7) 点</p>
---	---

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A (優良) = 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。(5点)

B (良好) = 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。(3点)

C (課題含) = 協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。(1点)

D (要改善) = 協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。(0点)

※特記事項欄は、評価を行った確認方法 (例: 立入調査、台帳確認、資料等確認) と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

※合計点は小数点第1位を四捨五入、平均点は小数点第2位を四捨五入とする。

【補足資料】

1 利用状況

項目	本年度〔令和5年4～9月〕 A	前年度〔令和4年4～9月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数	183	183	0	100.0	
施設利用者数	14,674	13,540	1,134	108.4	
施設稼働率	79.8%(146日/183日)	79.2%(145日/183日)	0.6%	100.8	
事業開催数			0	0.0	

2 事業収支

(1) 収入

項目	本年度〔令和5年4～9月〕 A	前年度〔令和5年4～9月〕 B	対 比 A－B (円)	対 比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
利用料収入			0	0.0	
指定管理料	9,479,000	8,336,500	1,142,500	113.7	
その他収入	310,509	282,661	27,848	109.9	
合 計	9,789,509	8,619,161	1,170,348	113.6	

(2) 支出

項目	本年度〔令和5年4～9月〕 A	前年度〔令和5年4～9月〕 B	対 比 A－B (円)	対 比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	4,727,960	4,689,639	38,321	100.8	
消耗品費	338,330	219,404	118,926	154.2	人工芝劣化によるライン引き回数増加のための塗料代
燃料費	170,000	160,000	10,000	106.3	
印刷製本費	0	0	0	0.0	
修繕費	504,312	127,144	377,168	396.6	乗用型除草機の修理
光熱水費	607,578	576,456	31,122	105.4	
通信運搬費	74,014	73,498	516	100.7	
手数料	177,562	154,000	23,562	115.3	
保険料	217,523	214,964	2,559	101.2	
委託費	284,780	282,050	2,730	101.0	
リース料	606,474	734,604	-128,130	82.6	
原材料費	0	0	0	0.0	
備品購入費	407,700	424,497	-16,797	96.0	

研修費	13,000	4,500	8,500	288.9	枝葉運搬祖業用機械講習受講のため
会議費	15,700	14,000	1,700	112.1	
雑費	30,121	23,996	6,125	125.5	自動販売機増設に伴う諸経費
合 計	8,175,054	7,698,752	476,302	106.2	

### 3 経営状況分析指標

項 目	本年度〔令和5年4～9月〕 A	前年度〔令和5年4～9月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
①事業収支	1,614,455	920,409	694,046	175.4	指定管理料の増額のため。
②利用料金比率	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!	
③人件費比率	57.8	60.9	-3.1	94.9	
④外部委託費比率	3.5	3.7	-0.2	94.1	
⑤利用者当たり管理コスト	557.1	568.6	-11.5	98.0	
⑥利用者当たり自治体負担コスト	646.0	615.7	30.3	104.9	

#### ①事業収支：（収入－支出）

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていのかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

#### ②利用料金比率：（利用料金収入/収入×100）

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

#### ③人件費比率：（人件費/支出×100）

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

#### ④外部委託比率：（外部委託費合計/支出×100）

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

#### ⑤利用者当たり管理コスト：（支出/延べ利用者数）

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

#### ⑥利用者当たり自治体負担コスト：（指定管理料/延べ利用者数）

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

4 団体等の経営状況（年度ごと下期に実施し、上期では行いません。）

項目	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	備考
①自己資本比率	25.1	21.5	16.7	12.3		
②流動比率	78	92.1	95.9	94.3		
③固定長期適合率	109.4	106.4	105.2	121		
④総資産経常利益率	▲5.8	▲5.4	▲9.1	▲4.8		
評価	（以上の指標を参考に評価する。）					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（\%）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】} 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多ければ、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（\%）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】} 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（\%）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】} 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】} 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

※補足資料1～4の各比率については小数点第2位を四捨五入とする。



■貸借対照表（例）

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
資産合計 2,000	負債純資産合計 2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

利用者からの苦情は寄せられていない。

6 利用者アンケートの結果

調査期間：令和5年6月15日から令和5年9月10日

回答者：13名

- ・施設の清掃など維持管理状況、職員の対応・マナー、使用申込手続きおよび使用料水準に関して高い評価を得ており、施設・設備を利用しやすいとの意見が90%以上（12回答/13回答）となっている。
- ・人工芝の張替等、設備の充実を要望する意見をいただいている。
- ・施設の使用手続きに関して、抽選を行う等各団体が平等に利用できるようにしてほしいとの意見をいただいている。